

証券コード：6841
横河電機株式会社

2023年3月期 第2四半期 決算説明会

2022年11月1日

目次

1. 2023年3月期 第2四半期 連結決算の概要 P. 3

執行役員 経理財務本部長 中嶋 倫子

2. 決算補足資料 P. 18

四半期別実績／営業外・特別損益／受注残推移／制御ビジネス金額別受注推移／
研究開発費・減価償却費・設備投資／貸借対照表／株価の状況

3. 現状認識と今後の見通し

「Accelerate Growth 2023」進捗と達成に向けて P.27

代表取締役社長 奈良 寿

2023年3月期 連結決算の概要

対象期間：2022年7月1日～2022年9月30日

執行役員 経理財務本部長

中嶋 倫子

2022年11月1日

■第2四半期実績：増収減益（対前年）

- サマリー 受注は、大幅伸長
売上は、為替の変動影響等により増収
営業利益は、粗利率の悪化、販管費の増加等により減益
四半期純利益は、増益
- セグメント別 制御 増収減益 (除・為替影響：受注23.6%増、売上1.2%増)
測定器 増収減益
新事業他 減収、営業損失は縮小
- 地域別 中東・アフリカ、中南米、インドが好調。日本、中国が堅調。
- サブセグメント別 Energy & Sustainability、Materialsが好調。
- 業種別 Upstream、Downstream、Chemicalが好調。

■通期業績予想：修正あり

- 修正要因 ①為替レートの見直し（1 USD = 130円 ➡ 135円）
②受注は上期の実績と今後の見通しを踏まえ上方修正

- FY21より、当社グループ内での経営管理区分の見直しを行った結果、従来「計測事業」セグメントに含まれていたライフソリューション事業を「制御事業」セグメントに区分を変更するとともに、従来「計測事業」としていた報告セグメントの名称を「測定器事業」に変更しています。なお、FY20のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しています。
- FY21まで「航機その他事業」としていた報告セグメントについては、航空機用計器事業の譲渡に伴い、FY22から名称を「新事業他」に変更しました。

決算サマリー（前年同期比）

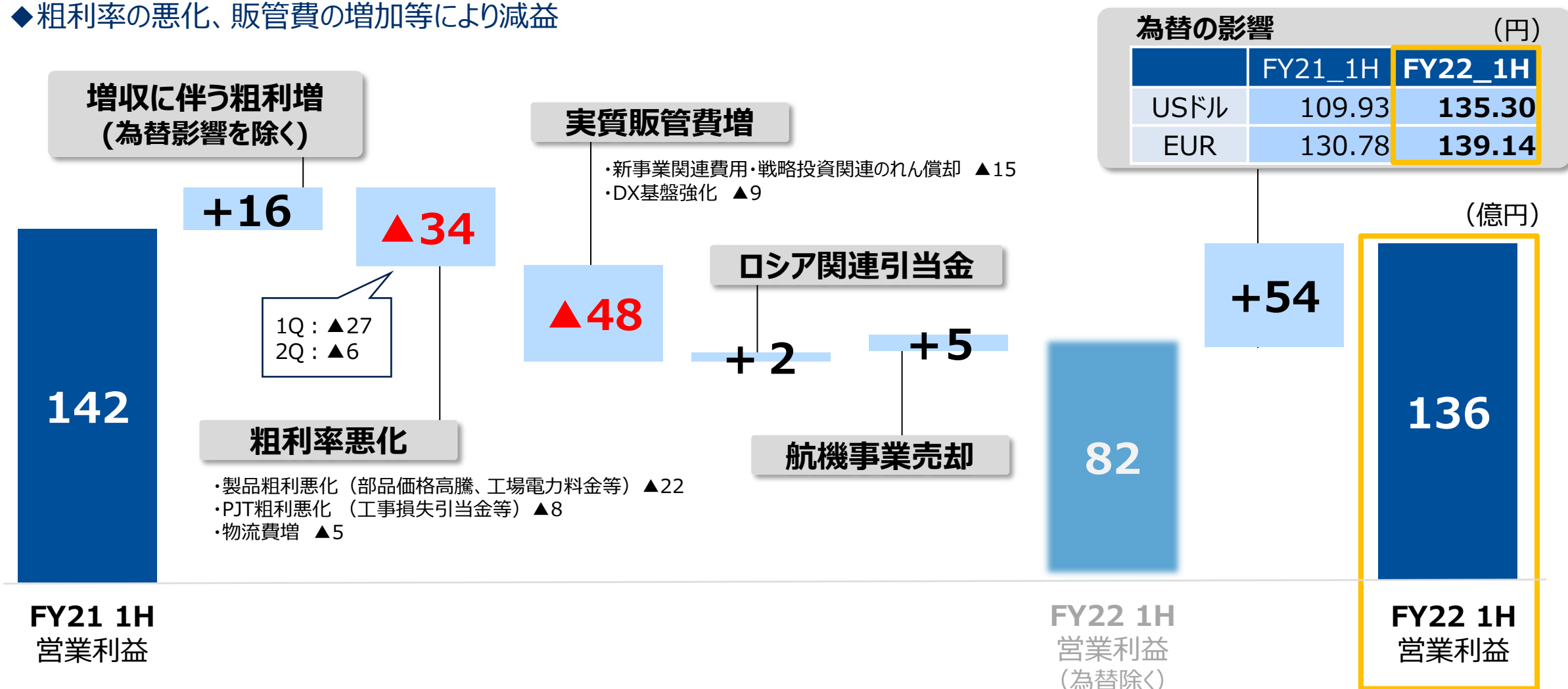
- ◆受注・売上：受注は**大幅伸長**（除・為替影響+22.9%）
売上は為替の変動影響等により**増収**（除・為替影響+0.4%）
- ◆営業利益：粗利率の悪化、販管費の増加等により**減益**
- ◆四半期純利益：**増益**

（億円）

	FY21_1H	FY22_1H	差異	増減率	為替影響
受注高	1,938	2,643	+706	+36.4%	+262
売上高	1,844	2,059	+215	+11.7%	+208
営業利益	142	136	▲6	▲4.2%	+54
R O S (%)	7.7	6.6	▲1.1pt	—	—
経常利益	151	159	+8	+5.4%	+58
親会社株主に帰属する四半期純利益	91	93	+2	+1.8%	+54
為替レート 1米ドル=	109.93円	135.30円	+25.37円	—	—

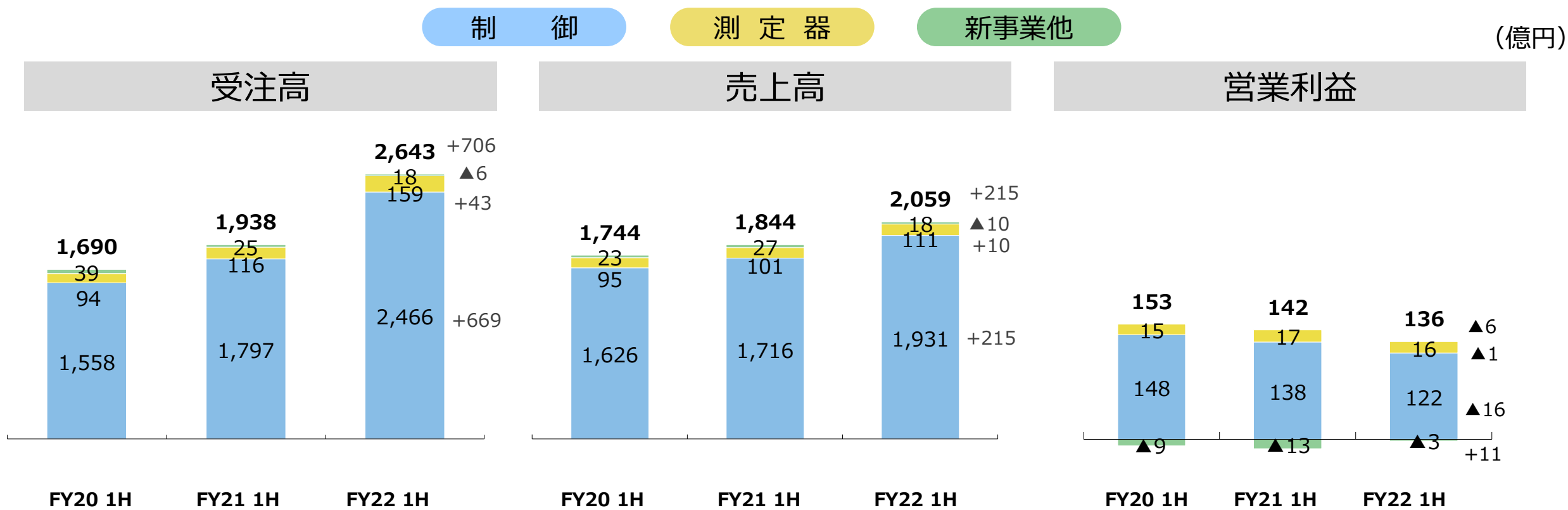
営業利益分析（前年同期比）

◆粗利率の悪化、販管費の増加等により減益



セグメント別 受注・売上・営業利益

- ◆ 制御事業： 受注は好調。売上は為替の変動影響等により増収（除・為替影響：受注+23.6%、売上+1.2%）
営業利益は粗利率の悪化、販管費の増加等により減益（除・為替影響：▲64億円）
- ◆ 測定器事業： 受注は好調。売上は増加したものの減益
- ◆ 新事業他： 航空機用計器事業の譲渡に伴い、売上は減収、営業損失は縮小



制御地域別 受注・売上高

- ◆ 受注は、中東・アフリカ、中南米、インドが好調。日本、中国が堅調。
- ◆ 受注：+424億円、+23.6%（除・為替影響） 売上：+20億円、+1.2%（除・為替影響）

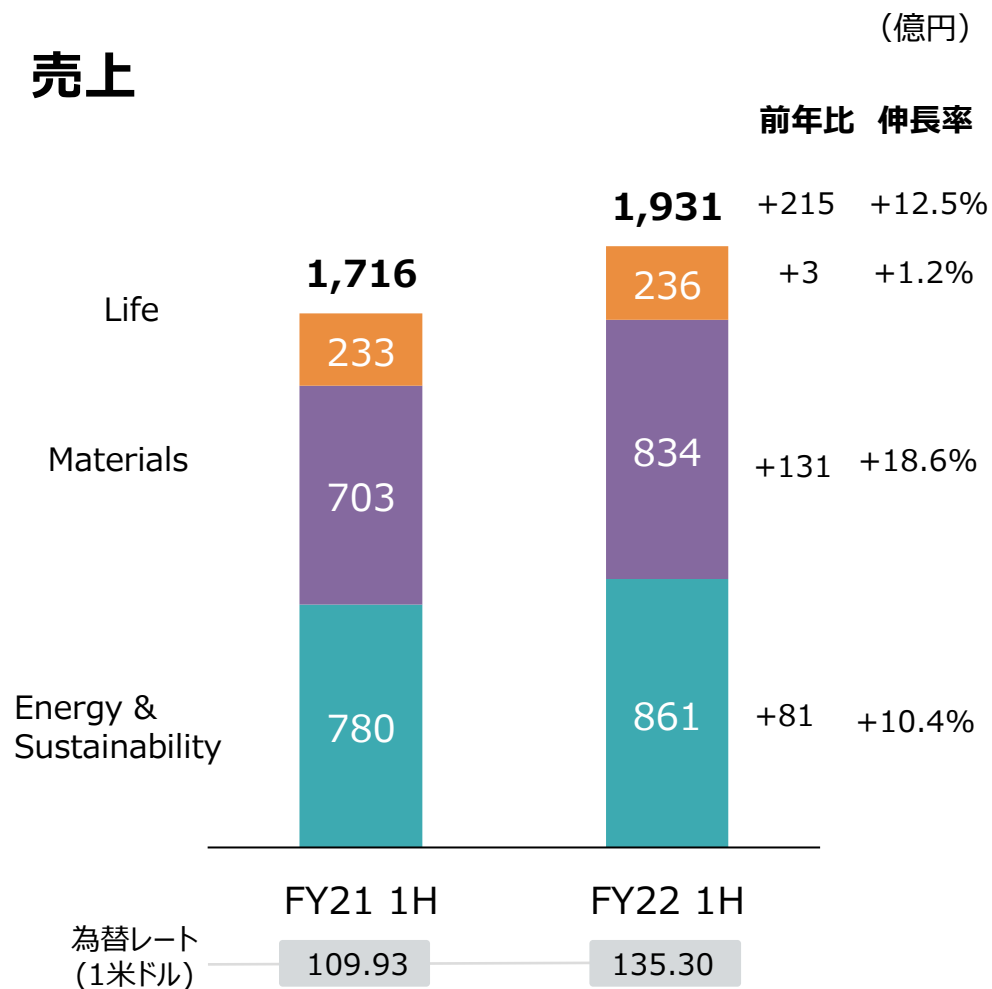
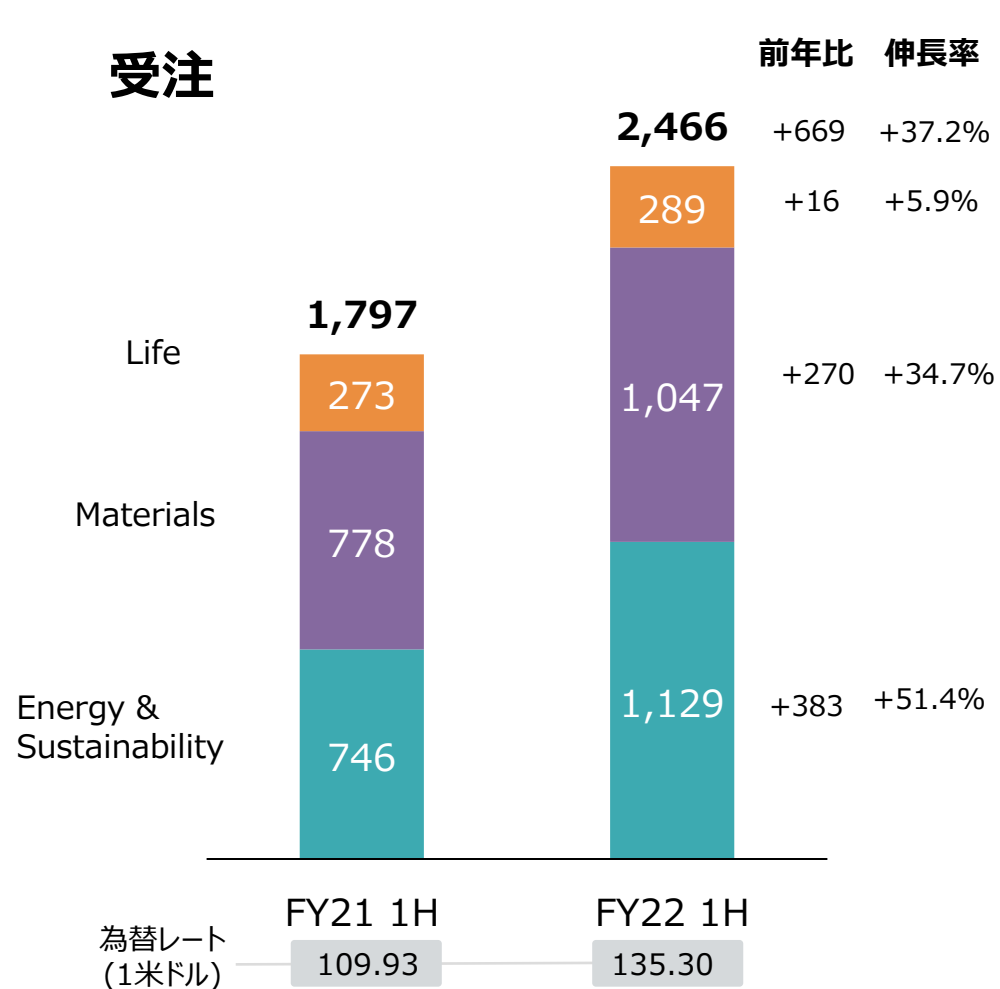
（億円）

受注高	FY21 1H (A)	FY22 1H (B)	前年同期比 (B-A)
日本	554	652	+98
アジア	670	906	+236
（東南アジア・ 極東）	(292)	(372)	(+80)
（中国）	(309)	(420)	(+111)
（インド）	(69)	(114)	(+45)
欧州・CIS	220	225	+5
中東・アフリカ	174	387	+213
北米	129	190	+61
中南米	51	106	+55
海外小計	1,244	1,814	+570
合計	1,797	2,466	+669
為替レート 1米ドル=	109.93円	135.30円	+25.37円

売上高	FY21 1H (A)	FY22 1H (B)	前年同期比 (B-A)
日本	496	518	+22
アジア	615	703	+88
（東南アジア・ 極東）	(285)	(305)	(+20)
（中国）	(271)	(318)	(+47)
（インド）	(59)	(80)	(+21)
欧州・CIS	219	213	▲6
中東・アフリカ	186	252	+66
北米	146	184	+38
中南米	54	61	+7
海外小計	1,220	1,413	+193
合計	1,716	1,931	+215
為替レート 1米ドル=	109.93円	135.30円	+25.37円

制御サブセグメント別 受注・売上高

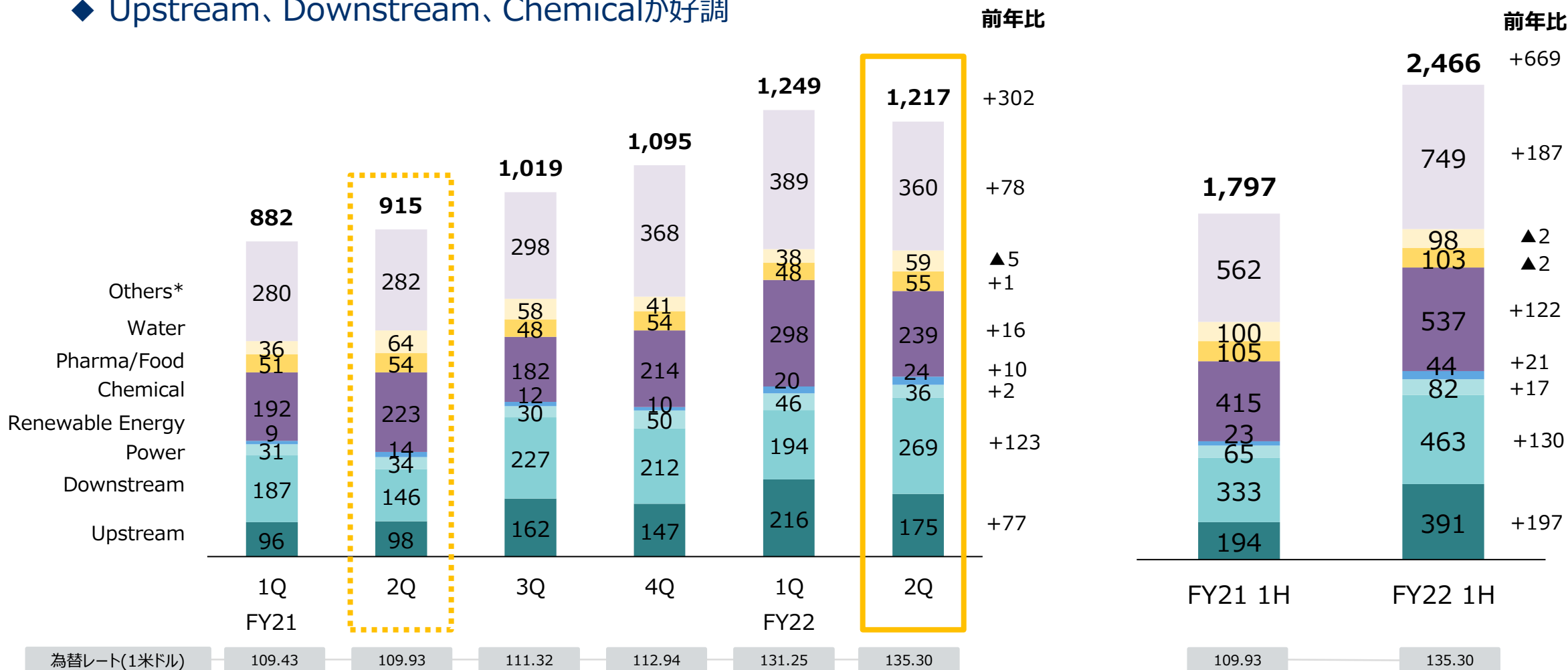
◆ 受注は、Energy & Sustainability、Materialsが好調



制御業種別 受注

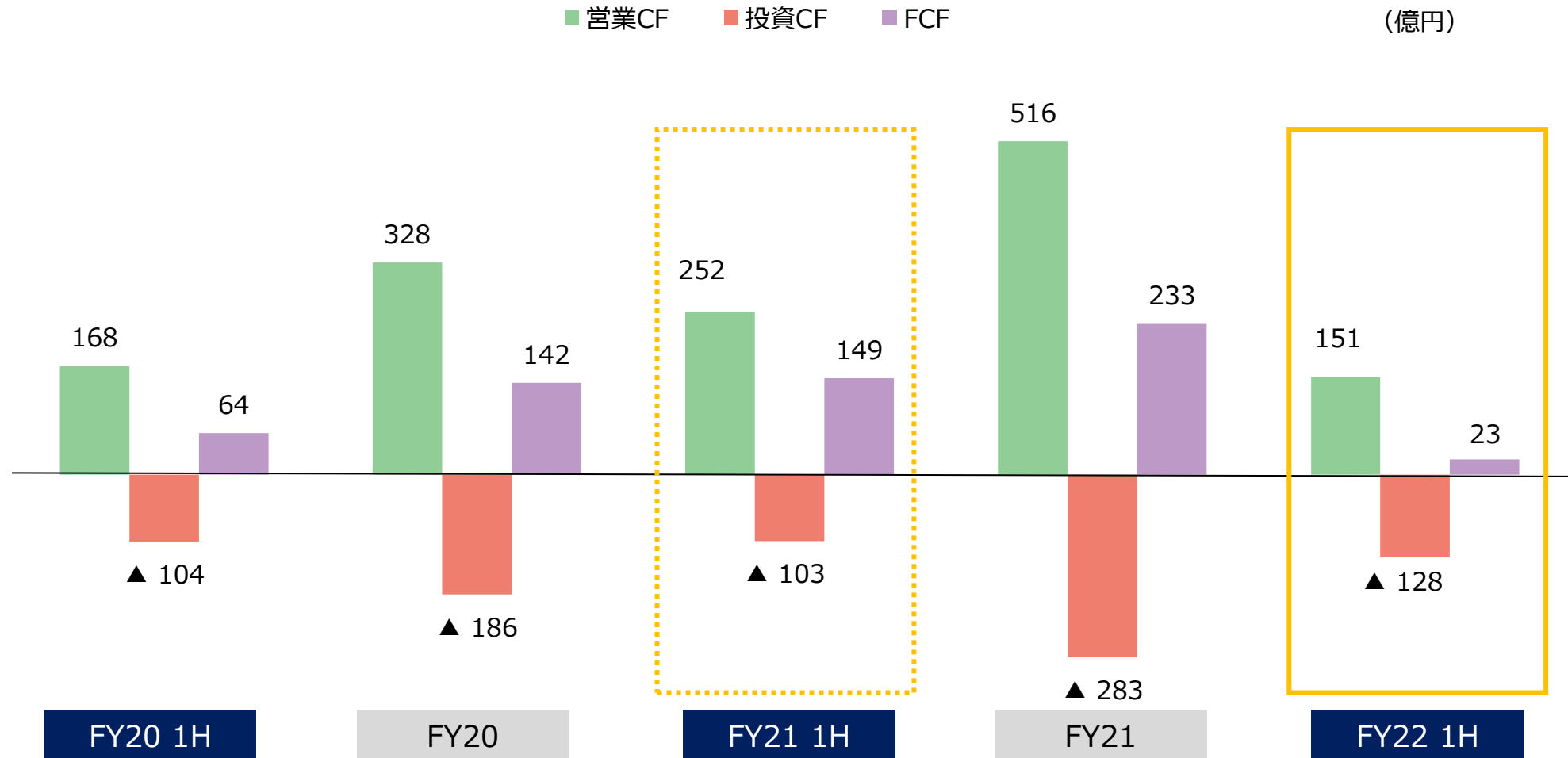
◆ Upstream、Downstream、Chemicalが好調

(億円)



*Othersの主な業種：ELECTRICAL & ELECTRONIC、IRON & STEEL、PULP & PAPER (ほか)

キャッシュ・フロー



FY22業績予想（修正あり）

- ◆ 為替レートの見直し（1USD= 130円 → 135円）
- ◆ 受注は上期の実績と見通しの状況を踏まえ上方修正

（億円）

	FY21(A)	FY22予想 8/9(B)	FY22予想 11/1(C)	前回予想比 (C-B)	前年比 (C-A)	伸長率 (C/A-1)	
受注高	4,205	4,530	4,800	+270	+595	+14.1%	
売上高	3,899	4,210	4,275	+65	+376	+9.6%	
営業利益	307	410	425	+15	+118	+38.5%	
R O S (%)	7.9	9.7	9.9	+0.2pt	+2.0pt	-	
経常利益	358	420	435	+15	+77	+21.7%	
税引前利益	301	420	435	+15	+134	+44.5%	
法人税等	88	140	145	+5	+57	+64.8%	
親会社株主に帰属 する当期純利益	213	280	290	+10	+77	+36.3%	
EPS(円)	79.73	104.90	108.64	+3.74	+28.91	-	
為替レート	1米ドル=	112.94円	130.00円	135.00円	+5.00円	+22.06円	-

■リスク要因

- インフレによるマクロ経済後退危機
- COVID-19変異株再拡大に伴う経済活動停滞
- 半導体・樹脂素材部品等の調達懸念
- 部材価格、エネルギー価格、人件費等の上昇

営業利益分析 予想（修正あり）

◆ 為替レートの見直し（1USD= 130円 → 135円）

為替の影響 (円)

	FY21	FY22予想
USDドル	112.94	135.00
EUR	130.88	135.00

増収に伴う粗利増
(為替影響を除く)
うち ウクライナ等による粗利減：▲50億
リカバリー等による粗利増：+30億

+42

▲15

▲7

+10

+88

(億円)

粗利率悪化

・実質粗利率悪化

実質販管費増

・先行投資
・貸倒引当金反動
・定常費用は抑制

航機事業売却

337

425

307

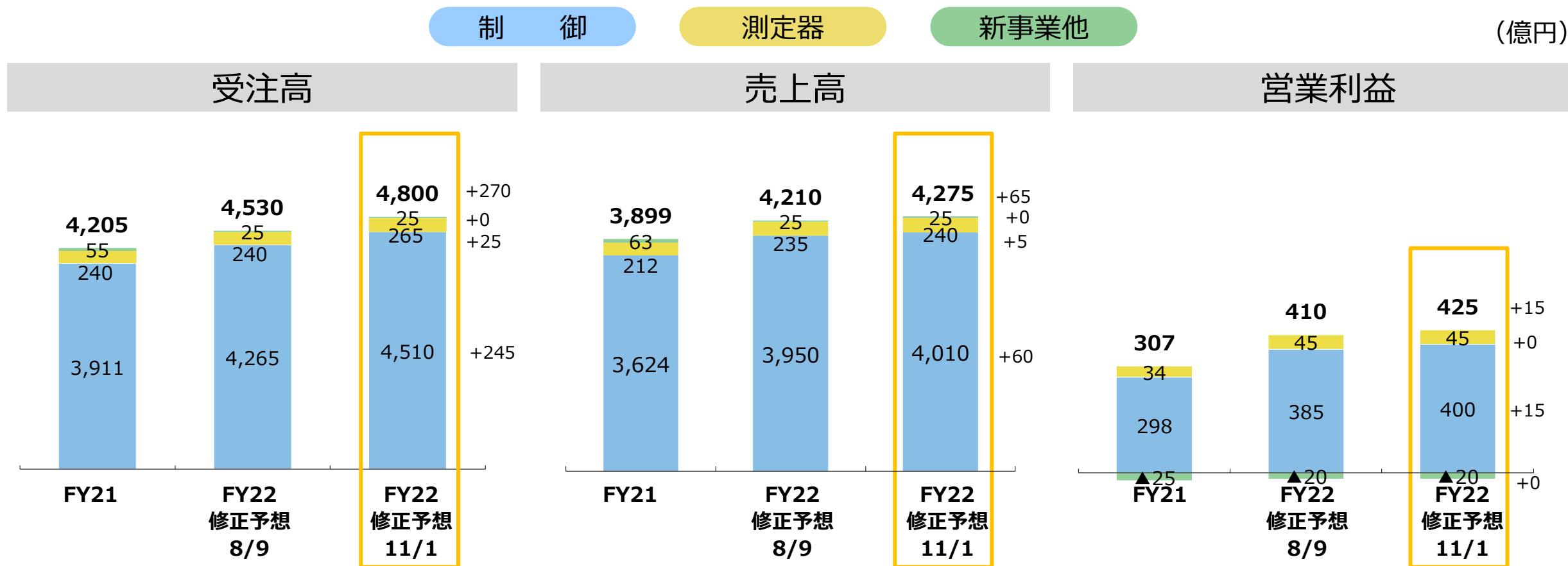
FY21
営業利益

FY22予想
営業利益(為替除く)

FY22予想
営業利益

セグメント別 受注・売上・営業利益 予想（修正あり）

- ◆ 為替レートの見直し（1USD= 130円 → 135円）
- ◆ 受注は上期の実績と今後の見通しを踏まえ上方修正



新事業他: FY21の数字は従来の「航機その他事業」の実績を表示しています

制御地域別 受注・売上高 予想 (修正あり)

◆ 為替レートの見直し (1USD= 130円 → 135円)

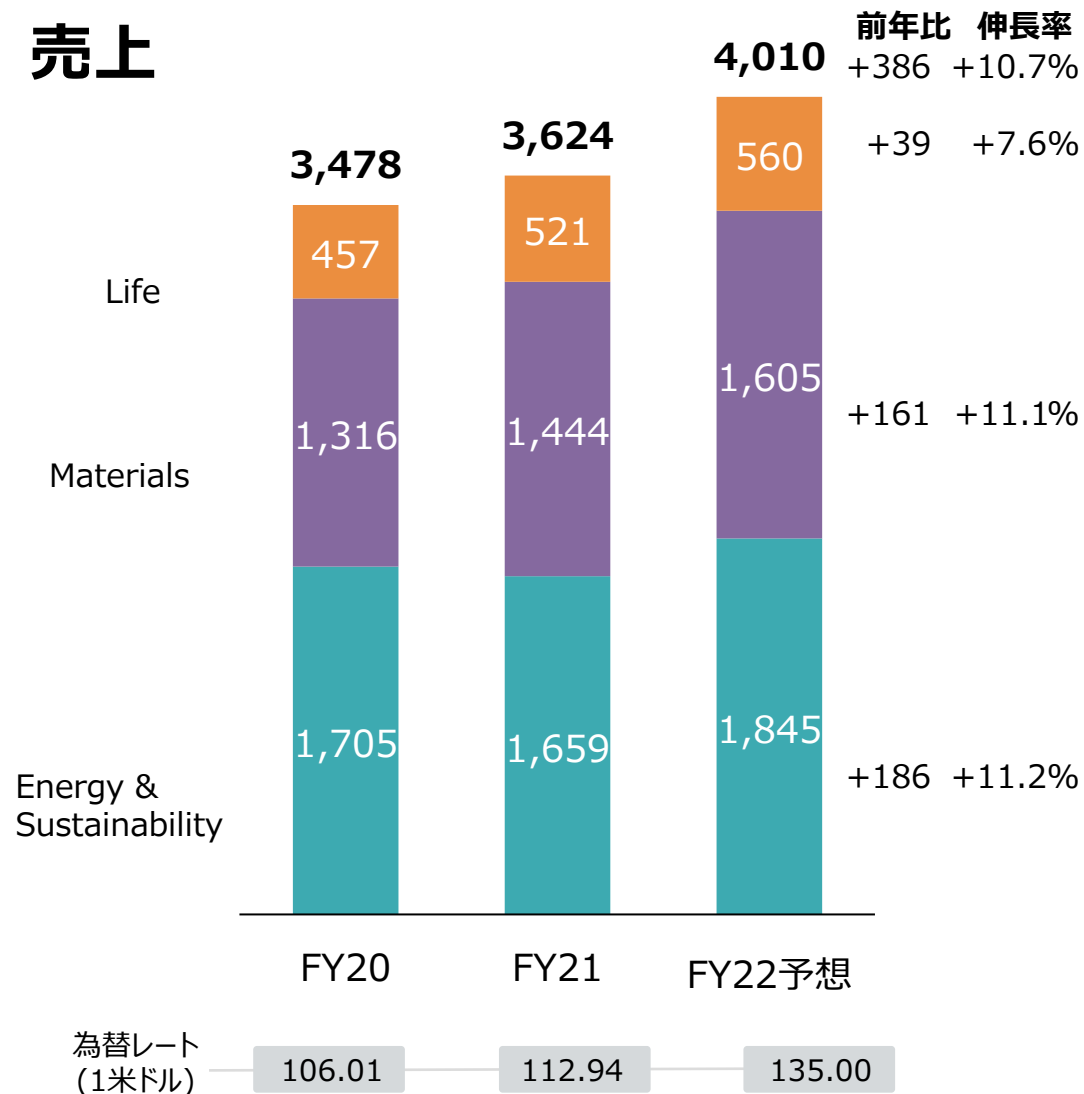
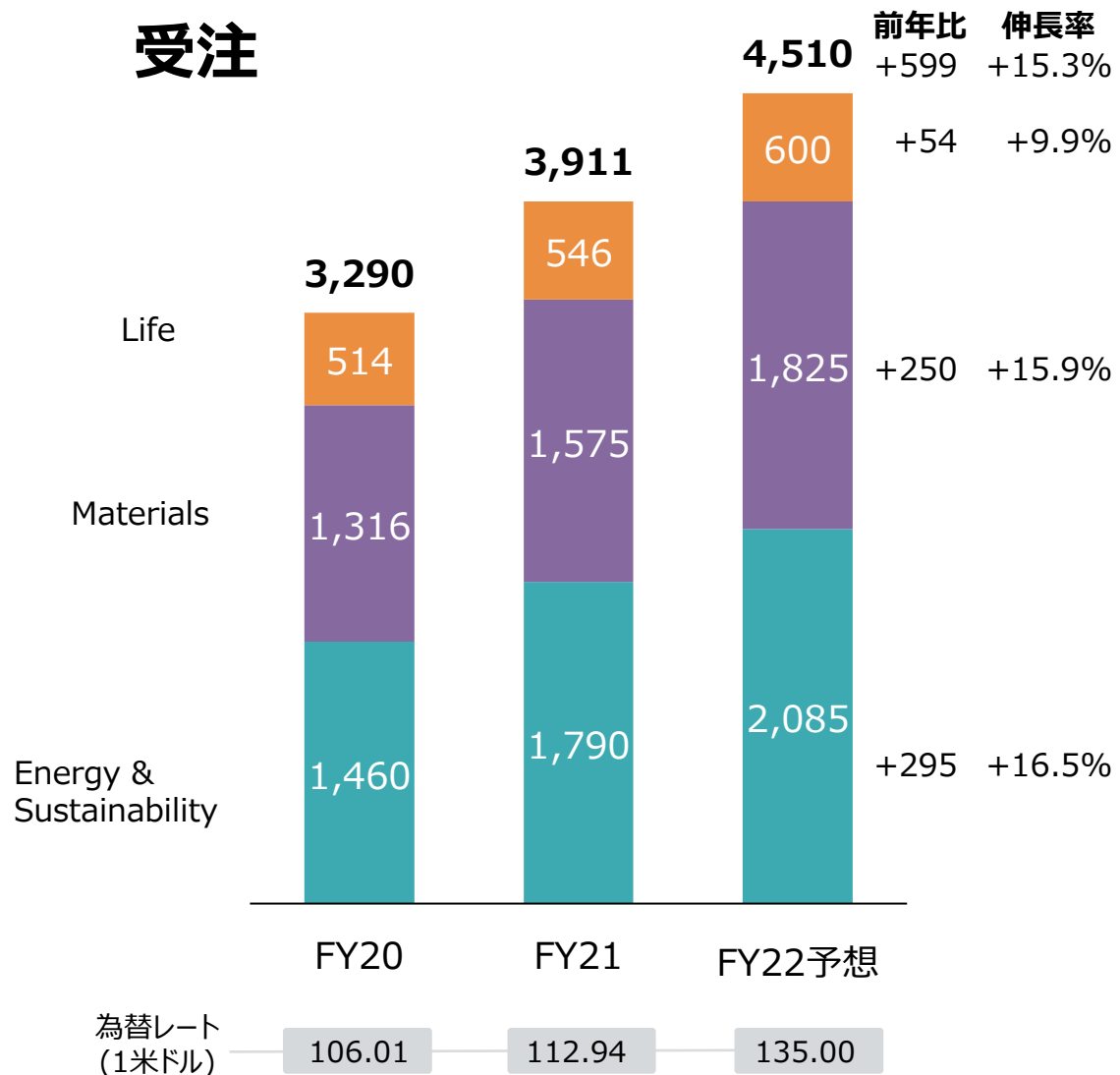
(億円)

受注高	FY21 (A)	FY22 (B)	前年同期比 (B-A)
日本	1,202	1,300	+98
アジア	1,340	1,580	+240
(東南アジア・ 極東)	(597)	(700)	(+103)
(中国)	(591)	(690)	(+99)
(インド)	(152)	(190)	(+38)
欧州・CIS	421	390	▲31
中東・アフリカ	517	680	+163
北米	318	400	+82
中南米	113	160	+47
海外小計	2,709	3,210	+501
合計	3,911	4,510	+599
為替レート 1米ドル=	112.94円	135.00円	+22.06円

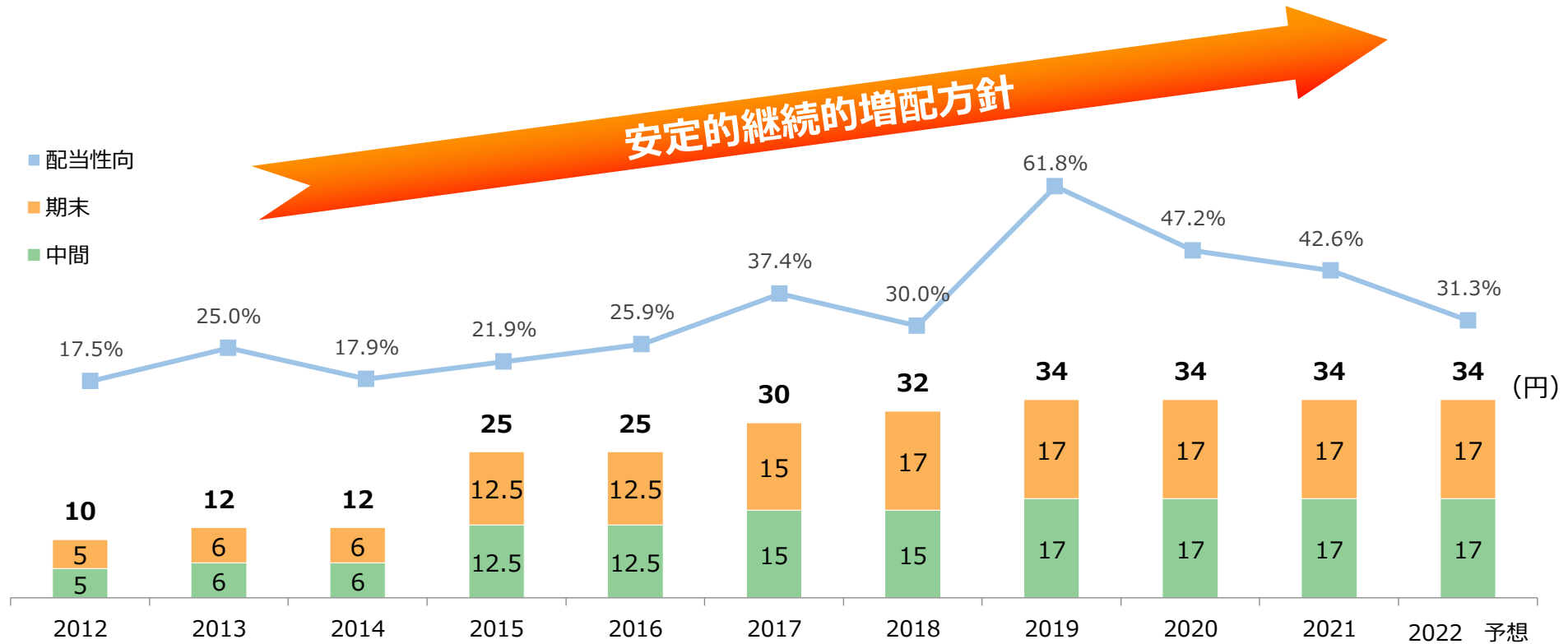
売上高	FY21 (A)	FY22 (B)	前年同期比 (B-A)
日本	1,094	1,175	+81
アジア	1,257	1,410	+153
(東南アジア・ 極東)	(567)	(630)	(+63)
(中国)	(546)	(600)	(+54)
(インド)	(144)	(180)	(+36)
欧州・CIS	432	390	▲42
中東・アフリカ	432	555	+123
北米	302	350	+48
中南米	107	130	+23
海外小計	2,530	2,835	+305
合計	3,624	4,010	+386
為替レート 1米ドル=	112.94円	135.00円	+22.06円

制御サブセグメント別 受注・売上高 予想 (修正あり)

(億円)



◆ FY22中間配当金17円を決議



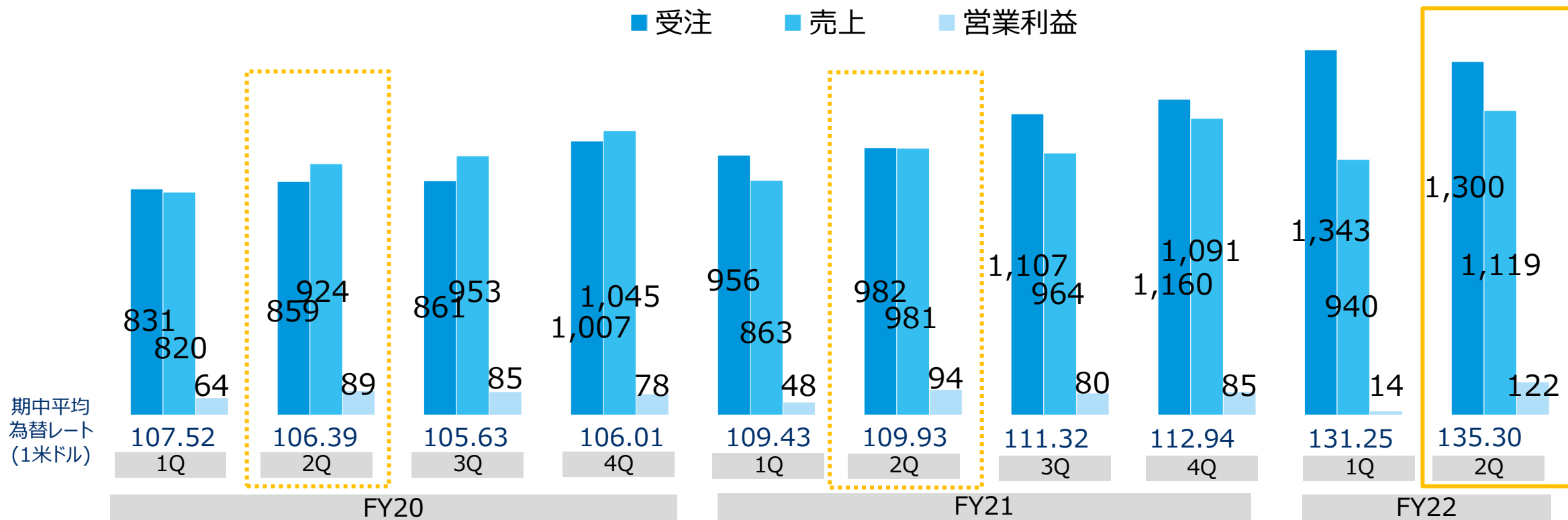
決算補足資料

- ・四半期別実績
- ・営業外・特別損益
- ・セグメント別受注残推移
- ・制御ビジネス金額別受注推移
- ・研究開発費・減価償却費・設備投資
- ・貸借対照表
- ・株価の状況

補足：四半期別実績

◆売上高・営業利益は、日本の制御事業を中心に2Qおよび4Qに集中傾向

(億円)

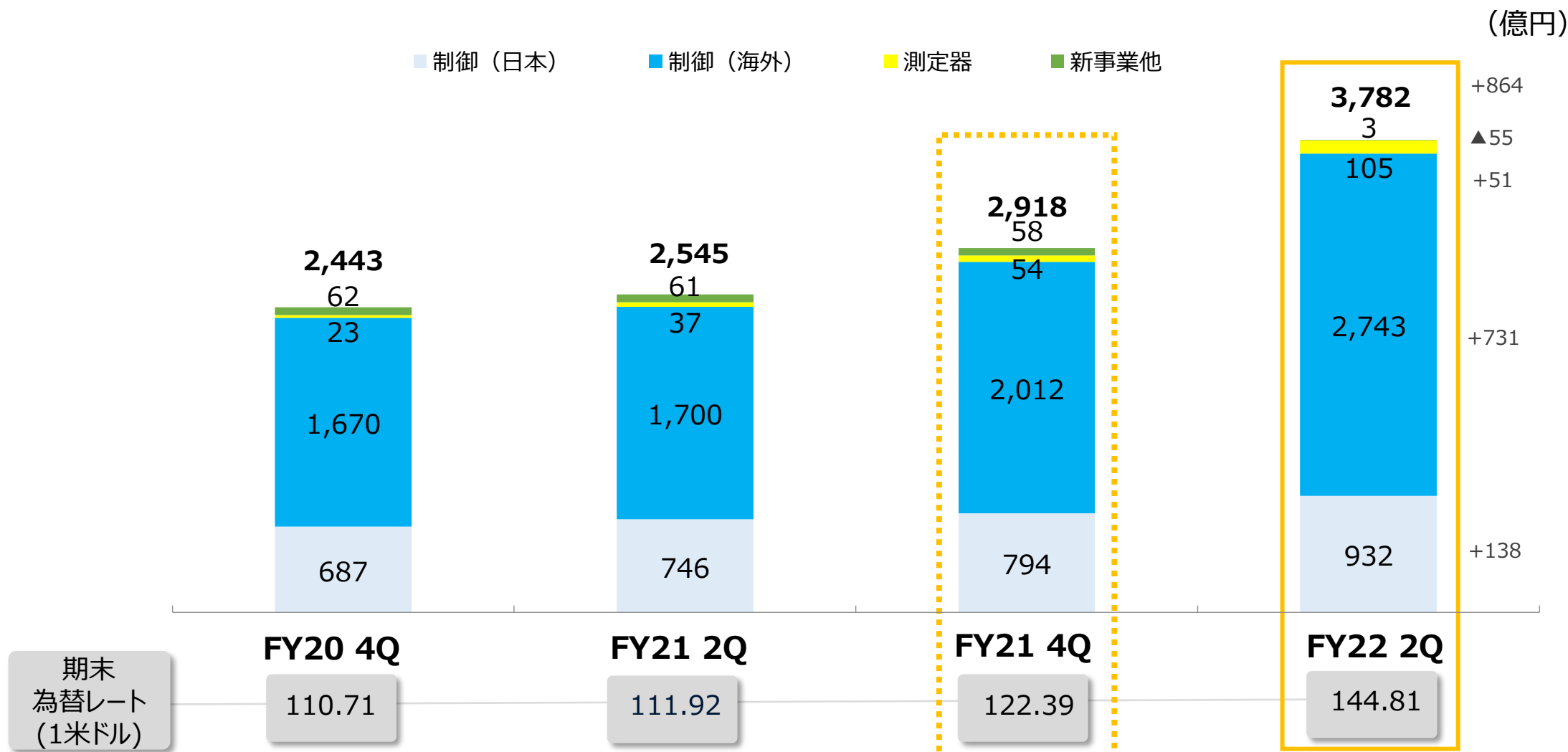


補足：営業外・特別損益

(億円)

	FY21_1H	FY22_1H	
営業利益	142	136	
営業外収益	21	40	為替差益 +9億円
営業外費用	11	17	
経常利益	151	159	
特別利益	0	8	投資有価証券売却益 +8億円
特別損失	3	1	
税引前利益	148	166	
法人税等	57	74	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	91	93	
(税負担率)	31.0%	35.5%	

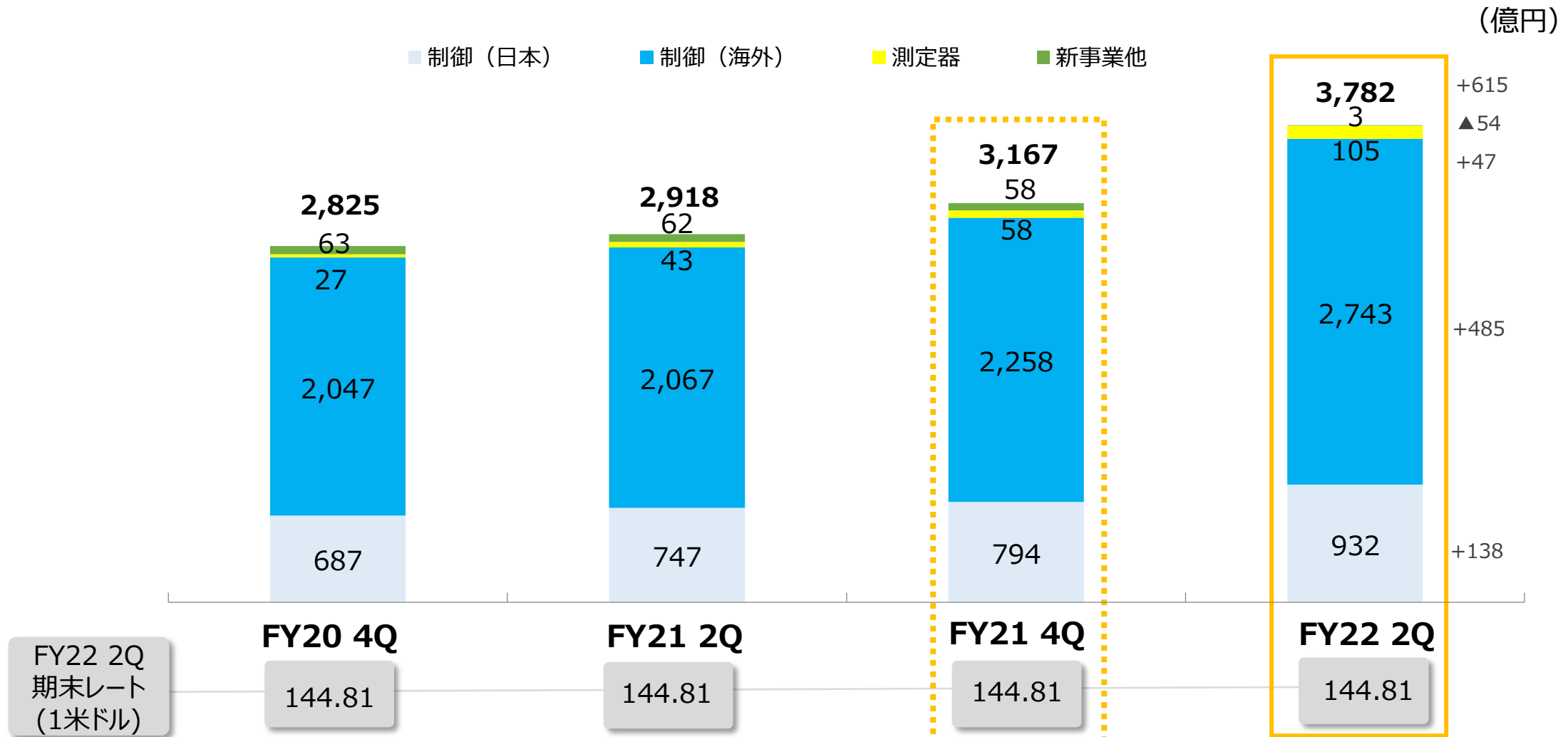
補足：セグメント別 受注残推移



FY20の数字も新セグメントの数字に変更しています
 航機その他のFY21末受注残は、4月1日付譲渡対象を含みます

補足：セグメント別 受注残推移

* FY22 2Q期末為替レート換算



FY20の数字も新セグメントの数字に変更しています
 航機その他のFY21末受注残は、4月1日付譲渡対象を含みます

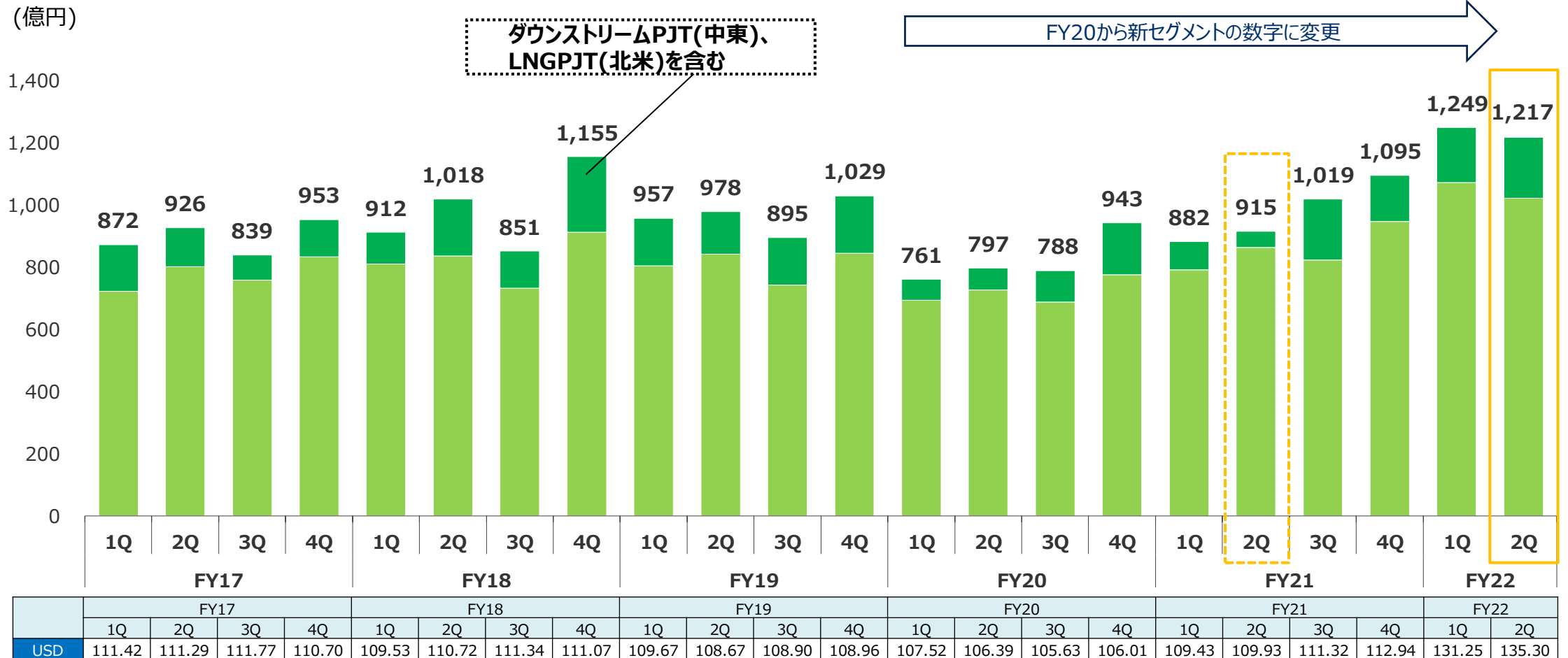
補足：制御ビジネス金額別受注推移

約3億円*以上の大口PJT比率は10~15%程度のみ

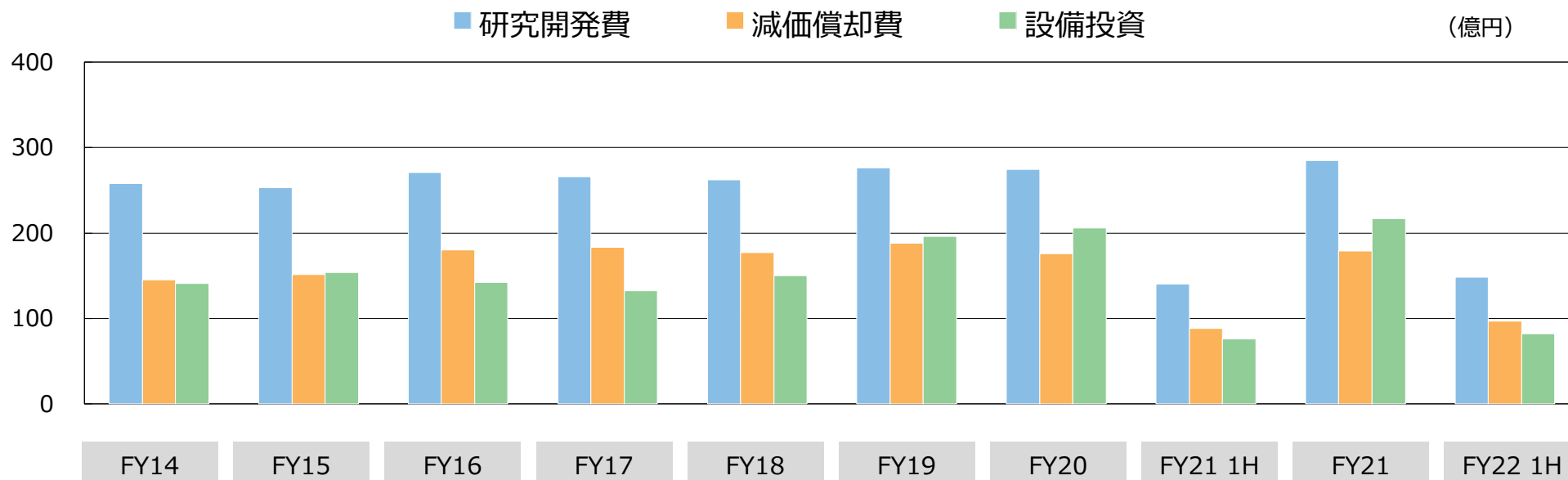
* 3MUS\$

3億円未満(小口PJT)
主にMROやSystem upgradeなどのOPEX

3億円以上(大口PJT)
主にFEEDやEngineeringなどのCAPEX



補足：研究開発費・減価償却費・設備投資



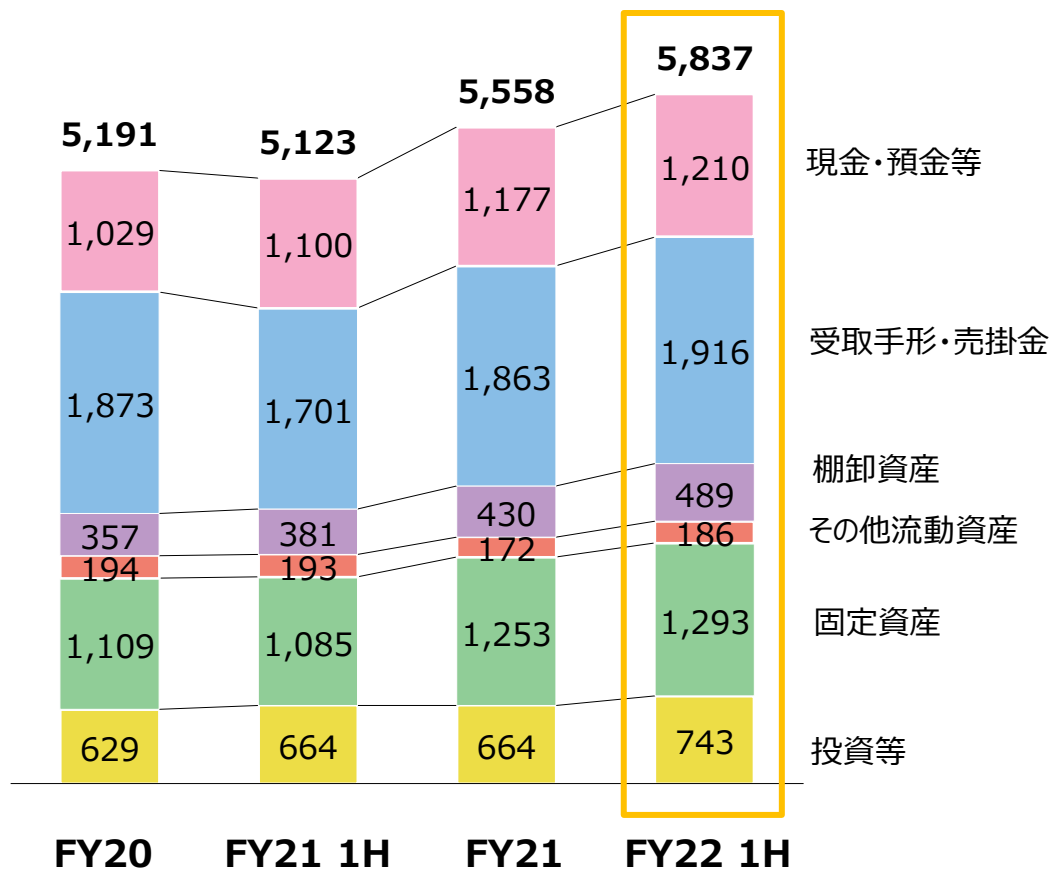
	FY14	FY15	FY16	FY17	FY18	FY19	FY20	FY21 1H	FY21	FY22 1H
研究開発費 (対売上高比率)	258 6.4%	253 6.1%	271 6.9%	266 6.5%	262 6.5%	276 6.8%	275 7.3%	140 7.6%	285 7.3%	148 7.2%
減価償却費 (対売上高比率)	145 3.6%	151 3.6%	180 4.6%	183 4.5%	177 4.4%	188 4.6%	176 4.7%	88 4.8%	179 4.6%	97 4.7%
設備投資 (対売上高比率)	141 3.5%	154 3.7%	142 3.6%	132 3.2%	150 3.7%	*196 4.9%	206 5.5%	76 4.1%	217 5.6%	82 4.0%

*FY19よりIFRS第16号（リース）を適用

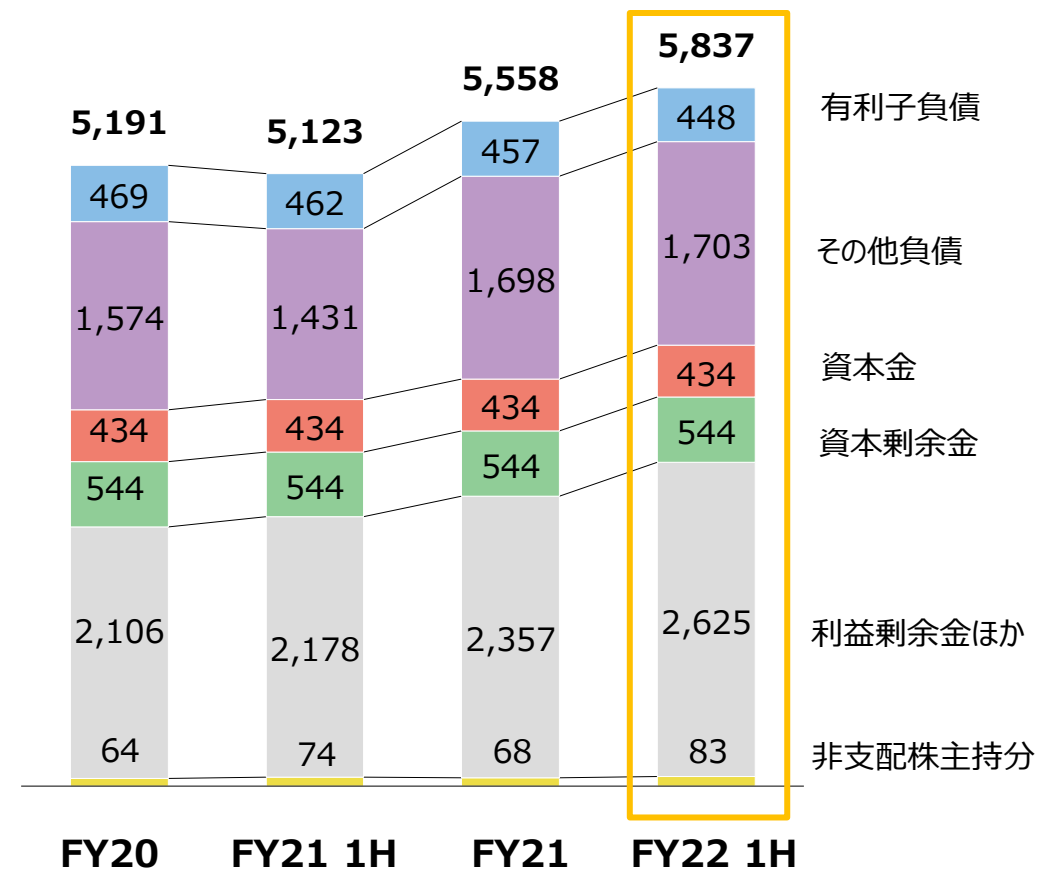
補足：貸借対照表

(億円)

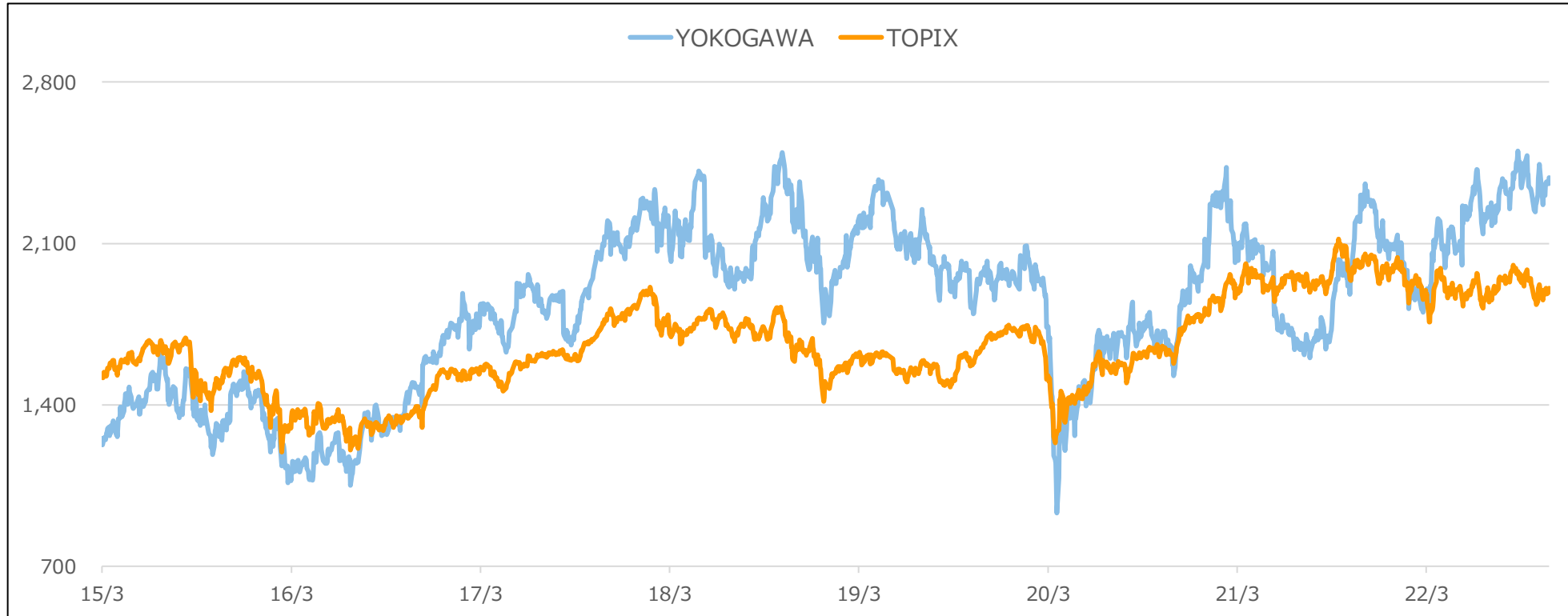
資産



負債・資本



補足：株価の状況



(¥)

	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	22/6	22/9	22/10/25
Yokogawa	1,295	1,163	1,752	2,198	2,291	1,303	2,038	2,099	2,241	2,275	2,385
TOPIX	1,543	1,347	1,512	1,716	1,592	1,403	1,954	1,946	1,871	1,836	1,907

2023年3月期 第2四半期決算
現状認識と今後の見通し
「Accelerate Growth 2023」
進捗と達成に向けて

代表取締役社長

奈良 寿

2022年11月1日

現状認識

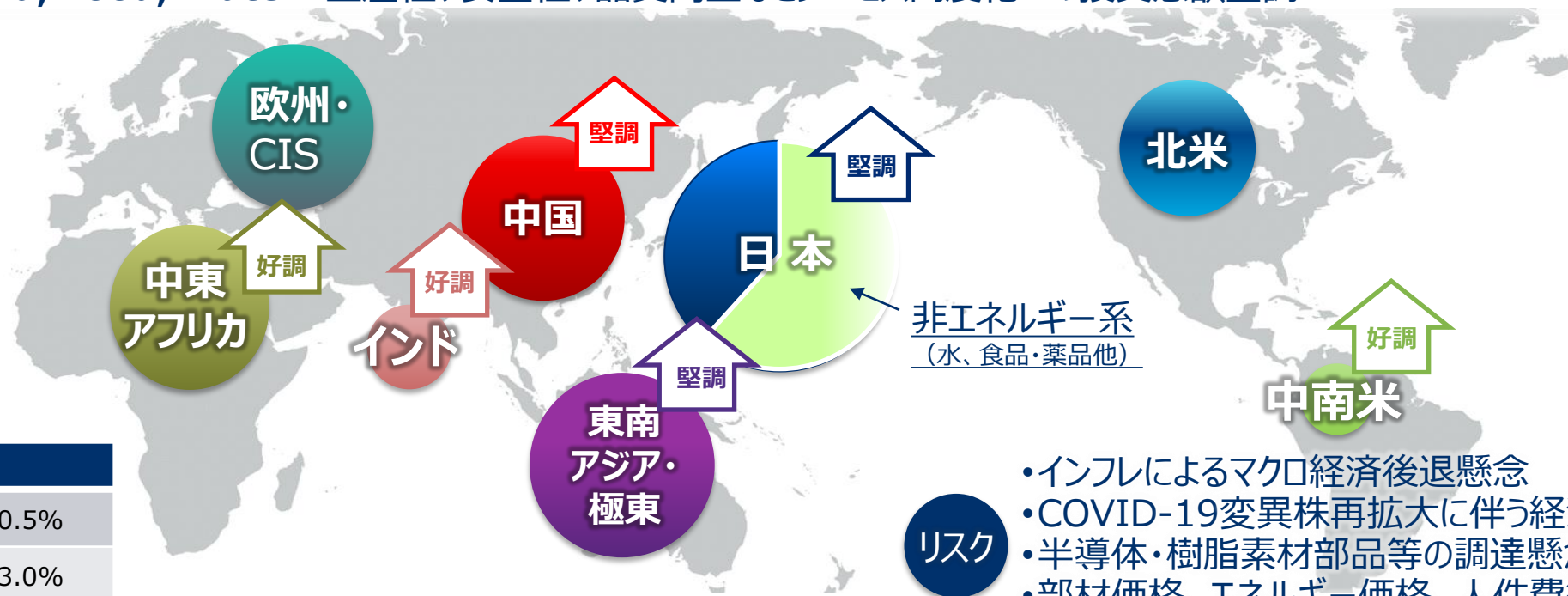
エネルギー関連業種のOPEXが好調、幅広く素材関連が堅調

地域

中東：設備更新などへ高い投資意欲 **中国**：Chemical中心にベース成長力継続。環境対応や品質向上への投資意欲も強い
日本：引き続き堅調 **インド**：リファイナリなど新規投資案件が活況

業種

Upstream：オイル・ガスの価格と需要が安定。OPEXのお客様投資意欲高い **Renewable**：各地域で活発な動き
Downstream, Chemical：増産、新素材製造に向けた投資増
Pharma, Food, Water：生産性、安全性、品質向上などプロセス高度化への投資意欲堅調



海外売上高比率

FY21 1H	70.5%
FY22 1H	73.0%

売上高

- プロジェクト案件の確実な遂行
- 部材調達難へのあらゆる対応によるプロダクト生産物量改善

収益性

- 価格転嫁施策の継続的・確実な実行
- 生産性向上施策・販管費効率徹底によるコスト上昇圧力のインパクト吸収



FY22業績予想を確実に達成

中期経営計画 Accelerate Growth 2023 レビュー

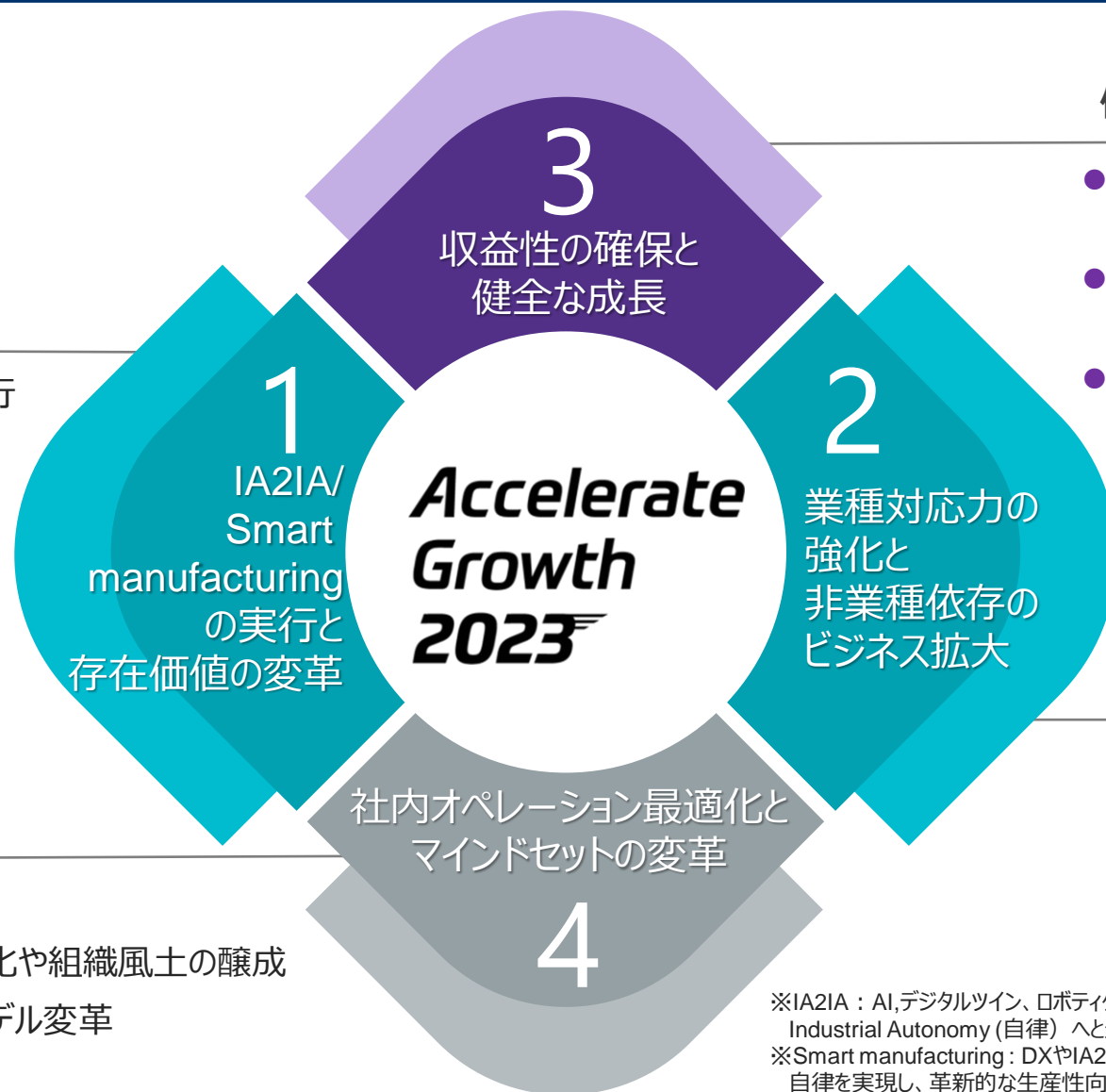
Accelerate Growth 2023 4つの基本戦略

提供価値の拡張

- IA2IA*の構想の実行フェーズへの移行
- Smart manufacturing*によるソリューションの提供範囲の拡大

社内基盤の強化

- 戦略立案機能の強化
- 挑戦を奨励する企業文化や組織風土の醸成
- Internal DXとビジネスモデル変革



価値提供における収益性と成長

- 大規模プロジェクトのナレッジ集約と効率化
- 高い価値を生む製品群へのリソース集中
- ソフトウェアやエンジニアリングの領域での利益確保

提供価値の拡張

- 総合エネルギー企業にシフトするお客様への新たな価値の提供
- 他業種、非業種依存のビジネスの拡大

※IA2IA：AI,デジタルツイン、ロボティクスなどのDX関連技術を取り込み、Industrial Automation(自動)からIndustrial Autonomy(自律)へと進化させる活動。

※Smart manufacturing：DXやIA2IAによって生産現場、エンタープライズ、サプライチェーンにおける自律を実現し、革新的な生産性向上を達成する活動。

1

IA2IA/Smart manufacturing の実行と存在価値の変革

戦略

提供価値の拡張

- IA2IAの構想の実行フェーズへの移行
- Smart manufacturingによるソリューションの提供範囲の拡大

進捗

提供価値拡張の実行フェーズへと進む

- IA2IA/Smart manufacturing事業のスケールアップに向けたソリューションのパッケージ化とグローバル展開は計画通り進捗
- MAC/MAICとしてのケーパビリティが評価され、受注を後押し
- ERPシステムインテグレーションの海外展開は順調に進捗
- リカーリングモデル、サブスクリプションモデルのビジネス変革を推進

成果

◆ IA2IA/Smart manufacturing 新規ソリューション数

FY21 実績 50件

➔ FY22 進捗 67件 (FY22 1H実績 17件)

FY23 目標 150件

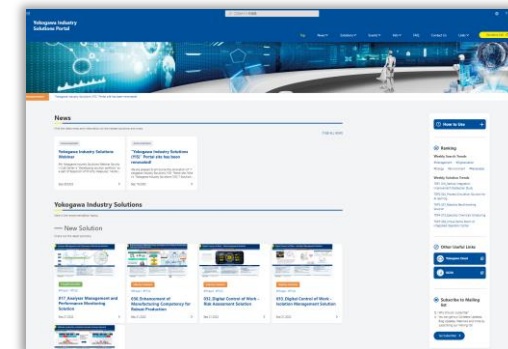
◆ IA2IA/Smart manufacturing 海外受注件数

FY21 実績 195件

➔ FY22 1H実績 100件

◆ 受注獲得、当社選定

- シェルがロッテルダム港に建設するヨーロッパ最大のグリーン水素プラントのMACに選定
- 北米最大の再生可能燃料プラントに向けた技術・設備機器・サービスの優先サプライヤーとして米国のGrön Fuels社から選定



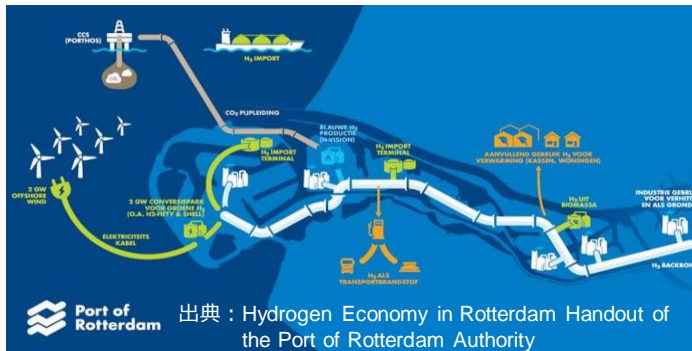
ソリューションポータルサイト
(社内向けグローバルWebサイトで提供)



再生可能燃料プラント完成予想図

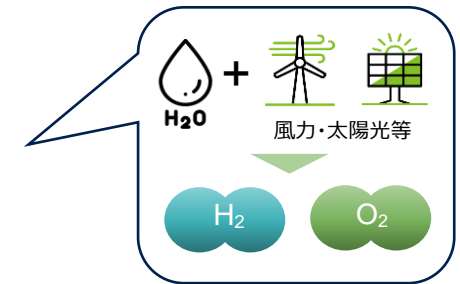
社会・サプライチェーン全体をYOKOGAWAがつなぐ

✓ ヨーロッパ最大のグリーン水素プラント群の第一弾、シェルがロッテルダム港に建設するホランド・ハイドロジェンIのMACに選定



ホーランド・アムステルダム港開発の全体像

- 水素の国際ハブ化
- 生産、貯蔵、受入、輸送（船・パイプライン）、供給、利用：サプライチェーンをつなぐ
- 洋上風力発電などの電力で、CO₂を劇的に削減



✓ SoS の世界をリードするインテグレータに向け、社会・サプライチェーン全体に提供するソリューション：CIサーバ



- 社会・サプライチェーン全体を有機的に接続
- すべての「物」、「データ」を統合、収集、分析、最適化・操業提案まで実行

2

業種対応力の強化と 非業種依存のビジネス拡大

戦略

提供価値の拡張

- 総合エネルギー企業にシフトするエネルギー業種のお客様への新たな価値の提供
- 他業種、非業種依存のビジネスの拡大

進捗

業種拡大を着実に実行

- 再生可能エネルギーや蓄電池を含む複雑なエネルギーサプライチェーンにおけるエネルギー最適管理ソリューションビジネスで受注獲得、引き合いも多く、順調な滑り出し
- 高機能化学市場におけるソリューションビジネスの拡大により売上拡大が順調に進捗
- 医薬・食品のソリューションの強化・ビジネス拡大に向けてセールス体制を強化中。受注・売上拡大に向け、活動の加速が今後の課題

成果

◆ 注力業種受注額（FY22 1H 実績）

- エネルギー & サステナビリティ事業 再生可能エネルギー業種受注 **44億円（YoY +89.5%）**
- マテリアル事業 高機能化学業種 海外受注 **77億円（YoY +88%）**
- ライフ事業 医薬・食品業種受注 **103億円（YoY ▲1.5%）**

◆ 受注獲得・プロジェクト完遂

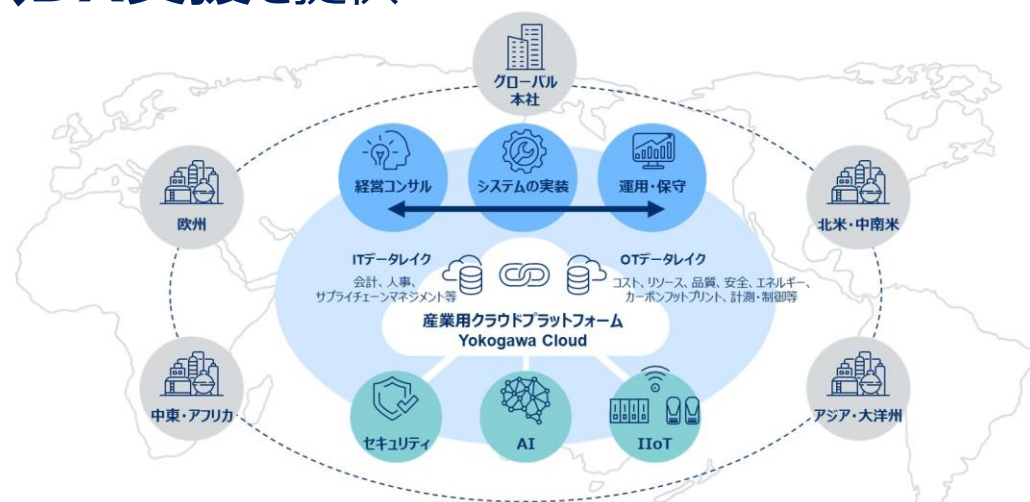
- 南米、マイニング業種で初の大型受注。マテリアル事業のグローバル連携強化により、機会創出。
- グリッドコントロール分野で初受注。PXiSE Energy SolutionsとYOKOGAWAのシナジーにより、買収後半年以内で2件受注。
- アフリカ最大の地熱発電量を誇るケニア共和国のオルカリア地熱発電所に発電性能などの遠隔統合管理を行うIoTシステムを導入



横河デジタル株式会社を設立

横河デジタル株式会社を設立（2022年7月）

- ▶ 製造業のお客様の経営から現場まで**一貫して対応**
- ▶ コンサルテーションからシステムの実装、運用、保守まで提供し、お客様の**幅広い部門へ1社で対応**
- ▶ **製造業の現場でDX経験を積み重ねているYOKOGAWAの強み**を活かし、**本当に成果に結びつくDX支援**を提供



経営コンサルティングから、クラウドに関するシステムの実装、運用・保守までを一貫して提供し
グローバルで全体最適を実現する製造業のDXを支援

IA2IA/Smart Manufacturingのビジネス加速とスケールアップへ！

AG2023達成に向けて

大きく変化する外部環境の中、**スピード感**をもって
Accelerate Growth 2023を実行し、**目標を達成する**

- ✓ YOKOGAWAの強みを生かし、**さらなる成長発展**に向け変革
- ✓ 提供価値の拡張と生産性向上により、**高い収益性**を実現
- ✓ 長期目線で**非エネルギー業種ビジネス拡大**、持続可能な社会の実現に貢献

Accelerate Growth 2023

測る力とつなぐ力で、 地球の未来に責任を果たす。

**Utilizing our ability to measure and connect,
we fulfill our responsibilities for the future
of our planet.**

「測る」は、YOKOGAWAの原点であり起点です。ものごとを測り、今ある状態をとらえ、見通し、そこから導き出される情報に価値を見出してきました。また「つなぐ」は、YOKOGAWAが価値ある情報を結び付けるだけではなく、さまざまな産業におけるお客様との信頼関係を築き、企業と企業、産業と産業の結束点となって、さらに価値を共鳴させていくことを意味しています。

「測る力とつなぐ力」はYOKOGAWAが決して失うことのないコアコンピタンスです。その力を今日の社会課題の解決に生かし、人と地球が共生する未来をかなえたい、そうした思いを「地球の未来に責任を果たす」というコミットメントに込めました。

参考資料

- ・トピックス
- ・採用されているESG関連インデックスなど

ご参考：トピックス (7/1~9/30)

7月

製造業のDXを支援する「横河デジタル株式会社」を設立

横河デジタル株式会社

～グローバルで全体最適を実現する経営コンサルティングサービスからシステムの実装、運用・保守までを一貫して提供～

【横河計測】近・中赤外帯の光スペクトラムアナライザ「AQ6375E」と「AQ6376E」を発売



8月

OpreX IT/OT Security Operations Centerサービスの提供を開始

～企業のIT/OT資産をサイバーセキュリティ脅威からリアルタイムで保護～

アフリカ最大の地熱発電量を誇るケニア共和国のオルカリア地熱発電所に 発電性能などの遠隔統合管理を行うIoTシステムを導入
～発電効率の最大化と安定的な電力供給を実現～

9月

北米最大の再生可能燃料プラントに向けた技術・設備機器・サービスの優先サプライヤーとして米国のGrön Fuels社から選定

【横河デジタル】ITや経営コンサルティングサービス強化のため株式会社エル・ティー・エスと資本業務提携

東南アジアにおけるERP事業成長の加速のため、Votiva社を買収

Yokogawa Votiva Solutions

～急成長を遂げている同地域のお客様に対する ERPソリューションのコンサルティング、導入、技術支援を強化～

シエルがロッテルダム港に建設するヨーロッパ最大のグリーン水素プラントのMACに選定

OpreX Field Instrumentsのラインアップ「電磁流量計CAシリーズ」を開発・発売



※日付は発表月です

ご参考：YOKOGAWAが採用されているESG関連インデックスなど

DJSI-Asia Pacific Index
FTSE4Good Index Series
FTSE Blossom Japan Index
FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
MSCI ESG Ratings AA
MSCI ESG Leaders Indexes
MSCIジャパンESG セレクト・リーダーズ指数
MSCI 日本株 女性活躍指数
ISS ESG - ESG コーポレートレーティング Prime
Sustainalytics Top-Rated ESG Regional Performer
CDPサプライヤー・エンゲージメント・リーダー
SNAMサステナビリティ・インデックス
S&P/JPXカーボンエフィシエント指数
Carbon Clean 200 (Clean200) リスト選定
EcoVadis サステナビリティ調査 ゴールド



横河電機株式会社のMSCI Indexesへの組み入れ、および本レポートでのMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名称の使用は、MSCIまたはその関係会社による横河電機株式会社の後援、推薦またはプロモーションではありません。MSCI IndexesはMSCIの独占的財産あり、その名称およびロゴはMSCIおよびその関係会社の商標またはサービスマークです。

Member of

Dow Jones Sustainability Indices

Powered by the S&P Global CSA



2022年10月現在



2022 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

2022 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

本資料およびアナリスト説明会で提供する情報のうち業績見通し及び事業計画等に関するものは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいています。

従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

当社がこの資料を発行した後は、適用法令の用件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

本資料の著作権は当社に帰属し、当社の事前の承諾なく複製または転用すること等を禁じます。

また、本資料には企業連結に係る暫定的な会計処理の確定および税効果会計に係る会計基準の一部改正に伴う過年度遡及修正を反映しておりません。(決算短信とは軽微な相違があります)

横河電機株式会社

IR部

Email : Yokogawa_Electric_IR6841@cs.jp.yokogawa.com

TEL : 0422-52-6845

URL : <https://www.yokogawa.co.jp/about/ir/>

Co-innovating tomorrow™

